

快感ミ、負かしの快感ミは明らかに區別されるものである。それが一方だけさいふこは理論上あり得ないこさ、して、經驗の事實ミしては、さつちが主になるかの相違はあり得る。それが性格にもよるのであり、性格にもなるのである。勝負の生活訓練は一つに此點を以て基本原理とするものこいつてよい。

勝ちたさが過度に主になる時、づゝるさも起る。勝負心の訓練に對して、勝負法の訓練である。正々堂々なんていふまでもないが、勝負はさこまでも、初めの願ひ、後の結果で、途中は途中そのもの、楽しみでありたいのである。さて、此訓練、さうしてするかさいふこになるこ、先生が傍觀、監視者に立つてゐるだけで、さうも、ほんさうの處までいかないであらう。先生もいつしよにその遊びの中へはいつて、見事な勝負振りを見せてやるのが一番いゝらしい。但し、それがなか／＼六つかしい。

誘導保育

第二週

之れは要するに、怪我をしないためこ、風をひかぬためこ、聊か、用心本位の事項である。こころで、かういふこさは、そのわけを餘り強く言ひきかせたり、殊に、その怖るべき結果を強調しすぎたりするこ、幼児が臆病になつて仕舞つて却つていけない。斯ういふここそ、實に實に、習慣を習慣ミしてつけさへすればいゝのである。

第三週

道路横斷の注意ミは、大都市幼稚園の場合である。田の畔路を蛙ミいつしよに横切り越すのに、別に大した注意もない。蛙の方を踏みつけないやうにすればいゝのである。それが大都市の道路では、逆に、幼児が蛙の位置にあつて、うつかりしてゐるこ踏みつぶされさうになる。——ああ、まだ小學校へも上らない幼児に、こんな苦勞をさせなければならぬのか。それも、幼稚園さいふ極樂園へ通ふのに。ああ、大都市の道路は恐ろしい地獄道だ。

第一週

お正月

第三學期始業の日、八日に子供達に會つて見るに、ハツト思ふ程に子供達の顔は晴れやかで輝しい。眉毛も、もみ上げもきりつみ剃られて、丸でお正月からぬけ出して來たかの様な可愛い顔、顔。昨日までは、長袖の着物も着て居たであらう、羽織袴でお玄關でお名刺等受けた男の子もあるであらうやうな面持。

松の内が過ぎたからと言つて、このまゝお正月を流してしまふ事等、到底も出來にくい心持で一杯だ。

さうだ、遂、こないだの暮には、幼稚園も世間並に、年の暮が押し迫つた様な忙しさが満ち満ちてゐた。羽子板の繪も、子供達の手で、二十四日までに出來上らせ度い、今學期のお仕事も二十四日までに型をつけ度い、まゆ玉も作り度い、ぬりゑもお正月前にして置くものを仕上げ度い、と思ふ心持で、遂、子供等の心までも忙がしいものにしてしまつた様だつた。

このまゝにお正月を通り過ぎてしまつては、暮のあの

慌しさから、一足飛びにお正月氣の無くなつた所へ高飛びした様な工合で、何みなしにつまらない氣持がする。そこで、話合ひの中に、又は幼稚園でのお仕事の中にお正月のものをいづばいに加へて、今から、子供達と一緒に幼稚園でのお正月を満喫しやうとする。

歌留多、お手玉、双六等の遊び道具を作る事にする。

それからお正月には、まこの家にもいろ／＼の趣向を凝した新しいカレンダーが集まるので、それ等から受けたであらう刺戟を頼りにカレンダーを作る。

お正月に關聯しての話合ひ、製作合ひ、家庭に於ける年中行事の興味も無關係なものはないので、期待効果は自然、行事へ對しての興味の促進も云ふ事になり、又行事に對して有する觀念の整理もなる事が多い。お互に話し合ふ事に依つて、發表力の養成もなる事は勿論である。その他、この主題に關係あるものゝ觀察に、活々しさを呈するところは、事實である。その他、双六やカレンダーの製作に當つては、數觀念の初歩觀念養成も云ふ事にもなる。

繼續作業時間は、今週も來週の二週間。

カレンダー

今週はカレンダーの製作をする。カレンダーには、一枚に一ヶ月分のが記入してあるもの、又一枚々々めくつていくものとの二通りがあるが、この組は年少組であるから、一枚づゝめくつてゆく、簡単な分り易い方にしようと思ふ。

作り方

一日一日の流れ、曜日の關係等は、大人な分りのいゝ子は、分つて居るかも知れないが、まだはつきりしない子も居るから、或一日、今日と言ふ日を土臺にして何月何日と黒板に板書する。そして日の下に、今日の曜日を片假名で書き入れる。明日は何日で、何曜日と、子供達と一緒に考へながら記してゆく。そして一月分をみんな三十一日まで書く。三十一日の次は二月一日になる事を教へ、前の様にして二月分も板書する。二ヶ月分位をゆつくりと子供達に考へながら書いたら、大抵は日や曜の進みが分つて来ると思ふ。そして、半紙半分位の大いさの紙に、一月分のを一日から三十一日まで、日と曜とをみんな代る々々代り合つて、はつきり分り易く書く。日曜は赤の紙に、土曜

は青の紙に、又祭日には國旗を交又さしたりして、世の一般がする様な事をするといふ。同様にして二月分、三月分、四月分……十二月分を拵へる。そしてみんな一年分が出来たらしつかりを綴ぢて、紐をつけ、保育室の、みんなから見えるところに下げて置いて、毎日々々めくつていく。

第二週

動物双六

今週は動物双六を作る。共同で自分の組の一枚作つてもよいし、又各々一人に一枚と言ふ様に拵へてもよい。

何でも好きな動物を描かしめ、色を塗らせ切り抜かせて大判の模造紙に、双六らしく貼り、上りや出發、戻りや、停頓等を拵へて、子供達手製の双六を作るのである。さいころは、粘土で作つてもよいし、店で賣つてるのを用ゐてもよろしいだらう。

出来たら先生も一緒には入つて盛んに遊ぶこゝである。

第三週

旅行

東京では一年中での一番寒い時期である。昔から風の子歌はれてる子供達ではあるが、この頃のお寒さには少々辟易してか、外へ出る子も減つて来る。又保姆さしても、日盛りの日當りのいゝ處でならかまはないが、朝の中さか、薄曇りの日等には、靜かに室内で遊ばせ度いさも思ふ。靜かな室内遊びさ言つても、羅漢廻しも、ハンカチ取りも椅子取りも、そう長續きはしない。そこで、靜かな遊びで、しかも興味の長續きのする誘導保育——旅行ごつこを案出したわけなのである。

停車場を中心にしたいろいろのもの——改札口、切符賣場、トランク、驛の商品——そう言つた様のもを拵へて、旅行ごつこをして遊ぶのである。よく子供等は、椅子を向ひ合ひに二列に並べたり、二つづゝを順々に後ろの方まで續けて並べたりして、汽車ごつこをしてゐる。前の方に少し大型の椅子をひつくり返して置いて機關車さ呼んで

威張つて遊んでゐるが、あれを少し誘導してやるのださ言つていゝ。

これの期待効果は、社會生活の興味、それから觀察、製作。

繼續作業時間は二週間。自由に思ひ出した様に遊ぶこは以後しばらく續くが。

切符、トランク作り

此週は、切符ミトランクを作る。切符は厚紙で作り、トランクは大型のボール空箱を利用する。空箱の四隅に皮(賣つてゐる)を貼り(二又の紙にて)同じ皮で取手等をつける。いかにもトランクらしくなる。四隅の皮や取手を切る位が子供達の仕事で、やはり大人の手傳が入用である。出來た人から、もう、トランクを持つて旅行ごつこをして遊んでゐる。

唱歌遊戯